

平成 22 年 4 月 20 日現在

研究種目：基盤研究(A)

研究期間：2007～2010

課題番号：19202027

研究課題名(和文) 商品化する日本の農村空間に関する人文地理学的研究

研究課題名(英文) Human geographical study on the commodification of rural spaces in Japan

研究代表者

田林 明 (TABAYASHI AKIRA)

筑波大学・大学院生命環境科学研究科・教授

研究者番号：70092525

研究代表者の専門分野：地理学

科研費の分科・細目：人文学・人文地理学

キーワード：地域性、景観、集落、生活様式、農村空間、商品化、余暇・観光、地域資源

1. 研究計画の概要

(1) 研究の背景 1990年代以降の日本では、農業が引き起こす環境問題や農業の担い手不足、米の生産調整政策の強化、輸入農産物との競合、食料自給率の低下、農村自体の弱体化など、様々な農業問題が顕在化してきた。この時期のより重要な構造的変化は、これまで基本的に農業生産の場としてみなされてきた農村が、農業生産のみならず、余暇や癒し、文化的・教育的価値、環境保全など、その他の機能をもつ場として捉えられることが多くなったことである。すなわち、現代の農村空間では、生産空間という性格が相対的に低下し、消費空間という性格が強くなっている。これを、「農村空間の商品化」として捉えることができる。

(2) 研究の目的 本研究では日本において農村空間の商品化がどのような形で、どのようなプロセスで振興しており、さらにそれが農村空間をどのように再構築しているかを、主として具体的な実証研究に基づいて、明らかにしようとする。

(3) 研究の具体的内容と手順 本研究は大きく4つの内容を含んでいる。まず第1に現代の農村空間を捉えるための地理学における概念的・方法論的研究である。第2には全国を視野にいれた農村空間に関する系統地理学的な課題の整理である。第3には日本の各地域における実証的研究であり、フィールドワークを重視しながら、現代の農村空間でおきている現象の実態と特徴を明らかにする。第4に商品化する日本の農村空間の性格と構造、そして地域差を解明する。初年度は第1と第2の課題に取り組み、農村空間の系統的地理学的な課題を整理する。第2年度と第

3年度には具体的な実証的研究を行い、最終年度に研究動向と系統地理学的な課題、そして具体的な事例研究に基づき、第4の課題に取り組むことにする。

2. 研究の進捗状況

研究計画にあげた第1の内容については、従来の内外の研究成果の検討と統計的分析に基づいて概念的・方法論的検討をすでに行なった。第2の農村空間の商品化に関わる系統地理学的課題については、大きく①農産物の供給(従来のような安価・大量の農産物、新しい農産物:安全・安心の食料供給、有機・無農薬・トレーサビリティの食品、直売・産直、ブランド食品、健康食品、美容のための野産物)、②反都市化に関わるもの(農村からの通勤、田舎暮らし、高齢者の安住の地、空き屋活用、別荘、クラインガルテンなど)③余暇・観光(散策、ハイキング、農業体験、グリーンツーリズム、市民農園、観光農園)、④景観・環境維持機能と社会的・文化的機能の4つに分類することができた。これらの課題にかかわる事例研究を全国各地でフィールドワークによって実施し、その成果をほぼまとめた。日本との比較のために、中国やドイツ、ルーマニア、カナダ、ブラジル、オーストラリアなど、外国での地域調査も実施することができた。今後は、文献研究や統計分析、具体的な事例研究に基づいて、現代の変化しつつある日本の農村空間の一般的な構造と性格を明らかにし、農村空間の商品化という視点の意義を考察する。

3. 現在までの達成度

① 当初の計画以上に進展している。

(理由)

第1の概念的・方法論的な検討、第2の系統地理学的課題の整理、第3の事例研究についてほぼ完了している。事例研究については当初の計画よりも多くの事例調査を実施した結果、多様な現象を把握することができた。さらに、外国での事例調査を実施することによって、日本の農村空間の特徴がより明確に見えるようになった。3年間にわたって年に3~4回の研究会・共同調査を実施することによって、研究代表者と研究分担者の相互の理解度を深めることができた。その結果、第4の課題である「商品化する日本の農村空間の性格と構造、そして地域差の解明」の準備が進みつつある。

4. 今後の研究の推進方策

研究代表者と研究分担者のそれぞれの分担課題についての調査・研究についてはほぼ完了しているので、すでに公開したもの以外について、2010年度には論文あるいは図書として公開する。個々の研究を総合して「商品化する日本の農村空間の性格と構造、そして地域差の解明」に務める。そのための研究会を実施したり、研究発表を行う。5月24日(月)に日本地球惑星科学連合大会で「商品化する日本の農村」に関するセッションを設け、16の研究発表を行う。7月初旬に原稿をもちより、それらの合評会を行う予定である。9月下旬までに、研究成果の主要なものをまとめて、科学研究費研究成果公開促進費(学術図書)の申請の準備を行う。4年間に実施した研究成果に関しては、2011年3月末までに報告書を印刷する予定である。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計51件)

- ① Tabayashi, A., Regional development owing to the commodification of rural spaces in Japan. *Geographical Review of Japan*, 82, 印刷中, 2010, 有
- ② Takayanagi, N., Revitalization with sunflower as amenity crops in a Japanese countryside, *Geographical Review of Japan*, 82, 印刷中, 2010, 有
- ③ 呉羽正昭, 日本におけるスキー観光の衰退と再生の可能性, *地理科学*, 64, 168-177, 2008, 有
- ④ 菊地俊夫, 地理学におけるルーラルツーリズム研究の展開と可能性—フードツーリズムのフレームワークを援用するため—, *地理空間*, 1, 32-52, 2008, 有
- ⑤ Iguchi, A., Tabayashi, A., Waldichuk, T. and Wang, P., The rejuvenation of greenhouse horticulture owing to the

introduction of hydroponic cultivation on the Kujukuri plain, Chiba prefecture, Japan, *Geographical Review of Japan*, 80, 234-259, 2007, 有

[学会発表] (計84件)

- ① 作野広和, 空き屋活用による定住政策と農村空間の商品化(商品化する日本の農村空間に関する調査報告13)、日本地理学会春季学術大会、2010年3月27日、法政大学、琉球大学
- ② 篠原秀一, 北海道羅臼・標津における村落空間の商品化—北東日本における商品化水産空間の地域性—(商品化する日本の農村空間に関する調査報告12)、日本地理学会秋季学術大会、2009年10月24日、琉球大学
- ③ 小原規宏, 大都市外縁部におけるルーラリティの商品化と農村再編—商品化する日本の農村空間に関する調査報告(3)—、日本地理学会秋季学術大会、2008年10月5日、岩手大学
- ④ Waldichuk, T., Tabayashi, A., Iguchi, A., The transformation of stone-wall strawberry cultivation on agri-tourism in Shizuoka Prefecture, Japan, Annual Meeting, Western Division of the Canadian Association of Geographers, 2008年3月8日, Western Washington University
- ⑤ Nishino, T., The present conditions of mountain villages in Japan and policy strategies for positive regional promotion, International Conference on Regional Innovation and Development, 2007年9月18日, Convention and Exhibition Center in Seoul

[図書] (計42件)

- ① 宮地忠幸, 成文堂、山間地政策を学ぶ、2010、189-211
- ② 松井圭介, ナカニシヤ出版、観光の空間—視点とアプローチ—、2009、31-41
- ③ 田林 明・菊地俊夫・松井圭介、農林統計出版、日本農業の維持システム、2009、502
- ④ 菊地俊夫, 二宮書店、観光を学ぶ—楽しむことから始まる観光学—、2008、216
- ⑤ 西野寿章, 原書房、現代山村地域振興論、2008、295

[その他]

研究内容と研究成果に関する web ページ

<http://www.sakura.cc.tsukuba.ac.jp/~nouson/index.html>